



2021年4月28日

各 位

会社名 株式会社 琉球銀行  
代表者名 取締役頭取 川上 康  
コード番号 8399 (東証第一部、福証)  
問合せ先 総合企画部長 島袋 健  
電 話 098-860-3787

## 貸倒引当金の見積りの変更及び2021年3月期の業績予想の修正に関するお知らせ

琉球銀行は、2021年3月期決算におきまして、貸倒引当金の見積りの変更を行った結果、2020年5月15日に公表した業績予想について下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 貸倒引当金の見積りの変更（フォワードルッキングな引当の導入）

当行では、主として過去の一定期間における貸倒実績率の平均値に基づく予想損失額を最善の見積りとして、一般貸倒引当金を算定してまいりました。当該算定方法は景気変動のタイミングやその大きさに応じた適正な引当金を、必ずしも安定的に算定することができないという課題を内包してまいりました。

当行は景気変動等に依らない安定的な金融仲介機能の発揮を目的として、将来に関する予測を貸倒引当金へ反映させる手法、態勢につき検討を進めてまいりました。

当連結会計年度末において、将来に関するマクロ経済指標の予測に基づき把握した予想損失が、実際の貸倒れとして顕在化する以前に、より適切に貸倒引当金へ反映させる合理的な見積りが可能となったことから、貸倒引当金に関する見積りの変更を行っております。

具体的には、貸倒れの発生確率との相関の高い複数のマクロ経済指標と当行が想定している景気変動の見通しから、景気循環における足元の立ち位置と今後の見通しを踏まえたシナリオ毎の実現可能性に応じて、業種別・信用等级付別等のグループ毎に過去の貸倒れの発生確率を基に、将来見込みによる必要な修正を加えて予想損失額を算定し、さらに外部環境等の著しい変化により、連結会計年度末に保有する債権の信用リスクが高まっていることが想定される場合には、予想損失率に所要の修正を加え、貸倒引当金を計上するものであります。

この見積りの変更により、2021年3月期決算において銀行単体の一般貸倒引当金は、見積りの変更が無かった場合と比較し約20億円増加し、経常利益および税金等調整前当期純利益は約20億円減少しております。

なお、今後の見通しについては、新型コロナウイルス感染症の影響を含め、経済活動は2021年度を通じごく緩やかな回復シナリオを想定していますが、貸倒引当金の見積りに用いた仮定については現時点における最善の見積りであるものの、当該仮定には不確実性が存在しております。そのため、新型コロナウイルス感染症の感染状況等による影響の変化によっては、翌年度以降において当該貸倒引当金が増減する可能性があります。

#### 2. フォワードルッキングな引当の導入の意図等

当行はこのフォワードルッキングな引当の導入により将来の不測の事態に備える引当を計上することが出来たと考えております。景気後退時に追加の貸倒引当が必要になり、銀行の与信コストに過度の影響を及ぼすというのがこれまでの経験でしたが、この引当の導入により景気が後退する前の平常時から引当金を積み増すことが可能となりました。この結果、景気後退時においても既に十分な引当が計上されているため、追加の与信コストの発生を必要以上に恐れずにより多くの顧客支援のための施策を行うことが可能になりました。

なお、一部のグループについて新型コロナウイルスの影響を主因に信用リスクが高まっている想定で、所要の修正を加えた予想実績率を適用しております。観光関連業種などについては、将来の新型コロナウイルスの収束によるリスクの低下並びに貸倒引当金の取崩しも想定されますが、現時点においては低リスクとなる時期の見通しは困難であるため、リスクが高い想定で貸倒引当金の算出を行っております。

### 3. 業績予想の修正について

2021年3月期通期連結業績予想数値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

（単位：百万円）

【連結業績】	経常収益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	60,000	5,000	3,000	69円88銭
今回修正予想（B）	57,200	3,800	2,500	58円17銭
増減額（B-A）	▲2,800	▲1,200	▲500	
増減率	▲4.7%	▲24.0%	▲16.7%	
（ご参考）前期実績（2020年3月期）	62,735	6,919	4,951	115円40銭

2021年3月期通期個別業績予想数値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

（単位：百万円）

【個別業績】	経常収益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	39,500	3,800	2,300	53円58銭
今回修正予想（B）	37,300	2,300	1,600	37円23銭
増減額（B-A）	▲2,200	▲1,500	▲700	
増減率	▲5.6%	▲39.5%	▲30.4%	
（ご参考）前期実績（2020年3月期）	42,490	5,374	4,009	93円43銭

（修正の理由）

銀行単体において、前述の見積りの変更を実施した結果、貸倒引当金繰入額が当初予定を上回る見込みとなったことを主因に銀行単体及び連結の業績予想について下方修正するものです。なお、当該要因を除けば連結、個別ともに当初の業績予想を上回る見通しとなっております。

### 4. 期末配当予想について

期末配当予想について、2020年5月15日に公表した内容からの変更はありません。

2021年3月期通期の配当性向（連結）の予想値は40%超となり、当行が30%程度に設定している水準を超過いたしますが、2021年3月期の減益は前述の貸倒引当金の見積りの変更による一過性のものであり、次年度以降安定的な利益を計上していく見通しであるため、配当額の修正はいたしません。

※ 本資料記載の業績予想は、当行が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以上

（お問い合わせ）総合企画部 担当：宮里・名嘉 電話：098-860-3787

# 貸倒引当金の見積りの変更（フォワードルッキングな引当の導入）

## 貸倒引当金の算定プロセス

$$\text{貸倒引当金} = \text{債権残高} \times \text{予想損失率}$$

予想損失率

（従来）過去の貸倒実績に依拠



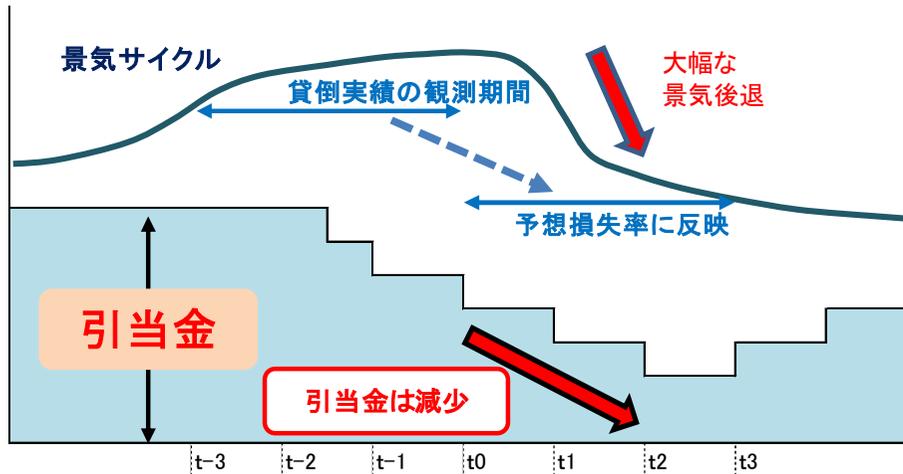
（変更後）将来の景気予測等に依拠

## 目的

- 将来リスクを足元や将来の情報を反映させ、合理的に見積ることで、将来の損失や危機への備えを強化
  - 与信コストの平準化（景気悪化時の追加与信コストの抑制、好況時の引当金取崩しの抑制）
- 追加の与信コスト発生を恐れることなく、取引先を支える体制を構築
- 前向きな営業活動に専念することで当行の成長力も向上

### <従来>

信用リスクに対し、必ずしも適切に備えられない



### <変更後>

予見される信用リスクをより適時・適切に反映

